



どんな傑作が写せるかな？

《症例検討・116》

子離れ

院長 清水 允熙

今回は、七十五歳の女性Tさんの例です。症状は以下の通りです。

### 症状

Tさんは、金銭の貸し借りをすっかり覚えており、会話も筋が通っているのですが、家族にはとても認知症には見えなかったそうです。しかし、半年前から「嫁がご飯を食べさせてくれない」という訴えを始めました。最初は近所の人も半信半疑に聞いていた様子ですが、次第に「この前はやつと食事させてもらったと思っただら腐った魚を食べさせられて、お腹をこわして大変だった」などと話がエスカレートしていきました。

長男はもちろんTさんの娘さんたちもそんなことはありません。長男はもちろんと嫁に同情して母親の説得に当たりましたが、効果はありませんでした。そこで娘さんたちが相談して気分転換に自分たちの家庭へ数日間交代でTさんを招きました。しかし、出かけたその晩から「家に帰る」と言い出して落ち着きません。結局翌日には帰ってきて、また嫁の悪口を言いふらしました。

## 経過

Tさんの場合、入院中に劇的な変化が起こりました。症状が消失し、考え方が安定し周囲の人への配慮も回復しました。あることがきっかけとなり、Tさんは急速に快方へ向かったのです。忘れっぽいことは仕方がないのですが、とりあえず家族が困ってしまうような行為は消失しました。

この変化は、長男が嫁と離婚したことによって起こりました。この離婚のニュースを聞いて以来、Tさんは一日中ニコニコと機嫌がよく、周りの人たちに得意そうに息子の自慢話をしていました。やがてTさんは笑顔で退院していきました。

## メモ1

不慮の事故によって、幼い子供の命が奪われてしまった母親が嘆き悲しむシーンを、私たちはニュースで見ることがあります。「わたしの子が…わたしの子が…」と言って、茫然自失の母親の姿が報道されます。

私たちはその母親に同情し、涙を誘われます。誰もが母親の言動に不自然さを感じません。幼ければ幼いほど、子供は母親がいなくては不幸です。逆に子供を亡くした母親も同様です。大昔から続くこの子と母の依存の関係が、母親の責任感と同時に「子は母親のもの」という考え方を成立させる原因となっているのでしょうか。

子供が幼いころに持っていた母親のこの考え方は、その後いろいろな人生経験のなかで醸成

され、人生をさらに豊かにするための考え方へと成長します。

しかし、運悪く「子は母親のもの」という考え方から離れられないで、老年期を迎えてしまいう母親がいます。

このような母親は、息子は自分のものであつて嫁のものではないという感情が強く出現する傾向があります。

例えば、息子夫婦が母親との同居を避けたり、息子が嫁の意見を優先させたり、母親を相談の場に入れなかつたり、息子夫婦と孫だけの行動を繰り返したり、仕事が忙しいことを理由に母親の話をしなかつたりなどの生活を続けると、年若い母親が衰えているこのような母親は生活の中に「淋しさや悲しみ」しか感じられなくなりま

「淋しさ・悲しみ」や「意欲を  
持てない」は「老化」と共に脳  
の働きを弱める大きな原因です。

したがって、このままの生活を  
続けていては「私はダメになつ  
てしまう」と、年老いた母は無  
意識下で予感します。したがつ

て「この生活のあり方を変えな  
ければ」となります。つまり  
「この淋しさや悲しさをなくさ  
なければ」と無意識のうちで現

状の改善を求めるようになりま  
す。このような時、年若い認  
知症状態に足を踏み入れてしま  
った母親の改善要求の言葉は

「嫁がお金を盗った」

「嫁が衣類を盗った」

「嫁がご飯を食べさせてくれな  
い」

「嫁がご飯に毒を入れた」

「誰かが家の中を覗いている」  
と表現されます。

つまり「私が淋しい思いをす  
るのは、私のものである息子を



嫁が私から盗ってしまったからです。嫁は悪い人なのです。皆さん、この悪い嫁を懲らしめてください。この家から追い出してください」ということを意味する言葉となるのです。このよる言動は「子は母親である私もの」という、かつて子供が幼いころに母親が抱いた感情の再出現でしかありません。そして、この感情を満足させ、安心していたいという母親の無意識の行為そのものでしかないのです。



お年寄りの認知症の症状として「お金を盗られた」などの妄想的な言動が出現することがあります。子供たちから優しい接し方をされていないお年寄りに多く見受けられます。そのようなとき

「誰もお金を盗っていません」  
「置き忘れたのでしよう。探してみましょう」  
「食べたはずですよ」  
「毒など入れるはずがないでしよう」

などの対応では、そのお年寄りの認知症の症状は改善しないでしょう。しかし、適切な時期に適切な対応ができれば、認知症の進行を遅くしたり、ストップさせることができます。

## メモ2

### 新年のご挨拶

理事長 清水 允熙

新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願ひ申し上げます。

本院創業以来、四十四回目のお正月を迎えることとなりました。

病院として四十年間、介護医療院に転換して三年間という長年間運営の過程で「認知症の改善・進行を止める」という理念は一貫して変わリません。介護医療院は認知症対応のための介護施設なので、介護度を持っている認知症の方々が入所されています。しかし、入所されても認知症改善薬はまだ開発されてはいないので対応方法だけが改善に繋がっています。

この対応は、ほとんどの場合認知症の症状が出現してからの対応になるため、殆ど遅れがちです。本当は症状が出現しない

うちに予防のための対応に入れば効果はさらに良くなるでしょう。しかし、施設入所希望者は介護度を持っていないと入所の対象にはならないため、ある程度状態が進行していないと介護は受けられないのです。それが手遅れの原因になります。とても残念なことです。

近い将来、時代のニーズが認知症改善薬などの研究開発を成功させるでしょう。現在、我々にとっては一刻も早く予防対応をすることが喫緊の課題です。

したがって、認知症状がはつきりとする前に、つまり前駆状態の更なる「前前駆期」に気が付かなければならないでしょう。将来認知症になるかならないかの進行が早くなるか遅くなるかの種は乳幼児期に撒かれていた可能性があるからです。

困難な時代がまだまだ続きますが、皆様と一緒に頑張っ参りたいと思います。

## 看取りに関わらせて いただいたと感じたこと

看護職員 菊池 愛

もし自分なら、最期の時をどこでどう過ごしたいか、誰もが一度は考えたことがあるのではないだろうか。近年では、理想とする最期を迎えられるよう、終活を行う人も多く見られる。エンディングノートや、死生観をテーマにした講演会など、死を前向きに捉え、死と向き合うことが自然になってきている。またそれは、遺された家族に迷惑をかけないよう、責任を持って最期を迎えるということでもあるのだ。

日本では少し前まで、死をタブー視するような考え方が一般的であった。当施設に入所されている多くの利用者様は、その

世代の方々である。加えて、認知度が高い超高齢の方々であるため、自分がどのような最期を迎えたいか、家族に伝えられている方はほほいなのではないだろうか。もちろん、家族もまた知らない方がほとんどであると思う。

### ◎

看取りの時期に差し掛かると、ご家族から、利用者様にしてあげたいことや、どのような最期を迎えていただきたいかを伺う機会を設けさせていただく。利用者様ご本人の好きな物事や趣味を中心に話していくのだが、してあげたいことが明確なご家族もいらつしゃれば、特に希望しないというご家族もあり、千差万別である。しかし、どのご家族にも共通するのは、苦痛なく穏やかに最期を迎えてほしいという想いであるように思う。

利用者様たちは、意思を発することが困難な方が多く、どのように最期を迎えたいと考えているのかを知ることができない。しかし、身体的な苦痛や変化は、毎日の関わりから汲み取ることが可能である。少しの変化でも医師に伝えることで、苦痛を軽減することに繋がる。暑いのか、寒いのか、どの姿勢が楽なのかなどの環境調整も穏やかに過ごすために重要な関わりである。苦痛なく穏やかに最期を迎えるために、その日々の関わりを変わらず継続させるためには、療養棟内のみならず、多職種間の情報共有が欠かせないと私は考える。

また、日々の少しの変化でもご家族にお伝えし、コミュニケーションを密に図ることもとても大切である。利用者様ご本人が、最期に向けて準備をして

いくように、ご家族も最期を迎える心の準備が必要であると思うのだ。

### ◎

私は看護師として働き出してからまだ2年目であり、利用者様の最期に立ち合ったことも数えるほどしかない。認知症高齢者の方の看取りに自分がどう携わっていけば良いのか、まだまだ模索中である。少しでも、利用者様とご家族双方が満足のいく看取りができるよう、努めていきたいと思う。



## 挨拶に込める

CACチーム 芹澤 和夫

自分が富士山麓病院介護医療院の面接を受けたのは、夏真っ盛りで八月中旬の午後でした。

緊張の面持ちで玄関をくぐる  
と「こんにちは」と気持ち良く  
挨拶をされました。スリッパを  
出していただき、ホールの一角  
のテーブルに案内されると、手  
荷物を入れるための籠を近くに  
置き「お使いください」と言わ  
れ、席に座るまでの心遣いに、  
何度もビックリの経験をさせて  
いただきました。

面接担当者様を待つ数分の間  
に、自分の横を五名の方が横切  
りましたが、全員が「こんにち  
は」と挨拶をして通って行きま  
した。

今までの経験では、来客者に  
対して職員全員が挨拶をする所  
は記憶に無く、挨拶が行き届い  
ている職場だと感じました。

そんな当施設に就職が決まり  
研修を行いました。皆さんに  
挨拶をし、そして挨拶をいただ  
き、声を掛けて、それだけで充  
分であると思っていました。し  
かし、まだまだ足りないような  
のです。何がまだ足りないの  
でしょうか。

◎

考えが及ばず、看護師さんか  
ら回答をいただきました。

朝「おはよう」と挨拶するの  
は当然だけれど「おはよう」と  
声を掛けて朝だと認識させてあ  
げる、今日初めての刺激が「お  
はよう」の挨拶で少しでも良く  
なってほしいとの想いが込めら  
れ、症状の改善に繋げていくの  
だと教わりました。

職員同士の「おはよう」と、

利用者さんへの「おはよう」は、  
言葉は同じであっても、込める  
想いは違うのだなと感じました。

挨拶だけでなく、利用者さん  
へお世話をする場面の声掛けに  
も注意が必要でした。声掛けは  
驚かせないためにするのは当然  
なのですが、信頼関係を築き、  
穏やかに過ごしていただく目的  
もあり、これは『看取り』の第  
一步であると考えていただきま  
した。

挨拶一つでも想いを伝えるの

は難しく、当施設の心遣いや看  
取りへの考え方とその対応に驚  
きました。

◎

現在、当施設では『気持ち良  
い挨拶は、気持ち良い一日の第  
一步』とスローガンを掲げて、  
更に挨拶に磨きをかけようと全  
員で取り組んでいます。自分も  
想いを込めた挨拶や声掛けに精  
進したいと思えます。

挨拶をしよう！



気持ち良い



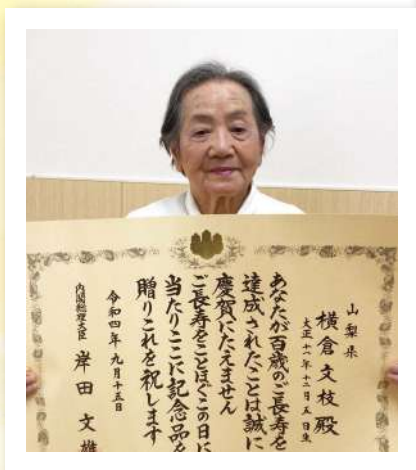
気持ち良い1日



富士山麓病院介護医療院

掲示されているスローガンのポスター

# 敬老会



今年度の敬老会は九月五日  
〜七日にかけて、各階ごとに  
ホールにて行われました。

清水理事長の挨拶では長寿  
者の方々へ労いの言葉があり  
なかには涙を浮かべている方  
もいらっしました。職員  
による音楽劇「てんと虫の  
サンバ」では軽快なリズムに  
合わせて手拍子で盛り上がり、  
職員扮する新郎・新婦にはつ  
わーっと驚きの声上がるな  
ど、普段では見られない様々  
な表情を見ることができま  
した。

また、百歳長寿者の方には  
お祝いとして内閣総理大臣よ  
り賞状と銀杯をいただきました。  
これからも更なるご長寿  
をお祈りいたします。

次の敬老会こそ、ご家族に  
も囲まれた中で利用者さんの  
ご長寿を施設全体でお祝い  
できるよう切に願います。

# 2022年レクリエーション

紅葉がきれいに  
染まりました



真剣に収穫しています



焼き芋が  
出来上がるの待ってます



エレクトーンボランティアの  
依知川先生と歌をうたいました



## 群馬県から御殿場へ 視察に来院しました

このほど群馬県高崎市から、地域で高齢者の居場所づくりに取り組んでいるボランティア・スタッフのうち四人が当施設の見学に来院しました。

多くが看護師の経験者、とりわけ認知症者への対応に関心があり、「新聞」を通して知った当介護医療院をぜひ見学したいとの要望で実現したものです。

日帰りで往復に七時間余りを要したため十分な時間は取れませんでしたが、清水院長、松下常務理事、勝又看護部長ほかの案内で、コロナのため外部からの立ち入りを控えている療養棟以外の見学と懇談に充実した時間を過ごして帰りました。以下四人の報告、感想です。

### ◆なぜ御殿場を訪れたか

富士山麓病院介護医療院については旧知の内藤さんから話を

聞き、新聞を読ませていただいた衝撃を受けました。

一人一人の患者さんのことをその成育歴から丁寧に捉え、今のその人の状況が手に取るようにわかる「症例検討」を読んで「ここまで一人一人の人生に關わろうとしているのか」と感銘を受けたのです。



更に医師だけでなくあらゆる職種の職員が一体となって患者さんに寄り添う姿を読ませていただき、また衝撃を受けました。「どのようにしてこんな素晴らしい関わりが出来るのか」

を知りたい、見てみたいと思うようになりました。

今回、私たちの思いを汲んで、このような機会を設けていただいた上、心のこもったおもてなしを受け、本当に感謝です。

### ◆美術館みたい！

病院らしくない施設。たくさん絵画や富士山の写真、寄贈されたグラントピアノヤ人形。三國連太郎さんの書や凝った家具類……。一つひとつに入所者さんの「物語」や院長先生の思いがあり、なんだか楽しくなるような施設でした。

認知症にはあまり薬を使わず、患者さんの成育歴や過ごししてきた人生を尊重することで症状が改善する例が多いとか、最期まで人としての尊厳を守ろうとする方針に感動しました。

### ◆思い出す義父のこと

認知症を患い、三年前に九四歳で他界した義父を思い出す。今から一四年前に鳥取で一人暮

らしたった義父を高崎に呼び寄せたが、私たち夫婦は仕事をしながら義父を看続けることが困難になって施設のお世話になった。それで認知症を進行させてしまった……みんな私のせい。別の対応の方法はなかったか。思い出すと今も後悔で涙が…。



利用者一人一人に目を配り、ご家族にこれほど感謝されている。そんな施設を直接見てみたいと心から思った。



新聞の記事から想像していた施設のありようが形となり、目の前に広がっていた。清水理事長の理念、哲学がこの施設には「形」として表われている。

松下様から伺った「CACチーム」にも感動した。認知症ケアに対する本物の医療介護がここには伝わっている。私たちは元看護師だが、現役の頃にごまで一人ひとりに対して「優しさ」「熱い想い」を込めた看護をしてきたであろうか？ 否だ。義父の介護でさえそうだった。あの頃の義父と「おとうさん」一緒にいられて「うれしい」「おとうさんはえらいね このくらい」と語り合えたかった。

### ◆改めて「生活史」に注目

清水院長先生のなるべく薬を使わず、利用者の存在価値や自己実現が実感できるような対応を通じて認知症の改善と進行のストップをはかるという理念に感銘を受けました。

私の経験では、対応の方法で症状が落ち着くという実感はありませんでしたが、認知症の改善とい

う考えまでには至っていませんでした。新たな発見でした。

認知症者を生活史から理解することの重要さも再認識したことの一つです。私自身、認知症看護を教えていた時に対象者の「ライフストーリー」を知ることの大切さを話してきました。印象的だったのは、昔の多くの写真の中から一枚を手に取り、じっと見つめているうちに当時の自分のことや親兄弟のことを話し始めた方がいました。その語りの過程で穏やかになっていったという経験です。清水先生のお話で、それがとても重要なことだったと改めて思いました。

職員の来院者への丁寧なあいさつや対応姿勢をみると、入所している方々への対応も素晴らしいのだろうと想像できます。

施設の運営をしていらっしゃる院長先生や松下様をはじめとする方々の基本理念、考え方がスタッフへ浸透していること、現われであろうと感じました。

### ◆高崎でいま試みていること

見学を終えた後、訪問団は「桂花カフェ」で持参した資料に基づき「居場所」設立の趣旨や活動の現状を説明しました。

退職後の私たちがこれからどう生きるか。コロナ禍で人々の孤立化が進む現代に高齢者の安全な居場所が必要と考えた。

高齢者の智慧に学びながら共に楽しめる場を、さらに若者や子どもまでが集える場に。

一人住まいだった高齢者（代表者の親類）が施設に入所して家が空いていたため内部を改修して「よっちゃん家（ち）」と名付け、二一年一月に開設した。

催、生活困窮者への食支援）

③ 認知症カフェ（場所提供）

④ ナースカフェ（月一回）

ボランティアのスタッフ 七名  
利用人数（のべ） 約四六〇名  
参加費 二〇〇〜三五〇円  
運営には各種助成金や補助金で

### 〇介護医療院からの感想・助言

・「看護職を対象に当居場所がほっとして、気が休まる癒しの時間と場所になるように」との活動になるほどと思いました。交流と連携を通じてお互いのスキルアップにつながれば素晴らしいことです。

・特に認知症への対応、治療には看護職と介護職員との協力と連携が不可欠。スタッフの中に元看護師だけでなく介護職員の経験者が入るとさらにいい。

\*

この日、群馬から訪れた人たちは閑所に富士山を見ることを楽しみにしていましたが、あいにくの曇天でまったく見えず。他日の再訪を期待しています。

（文と写真 内藤・安田）



- ① 地域の居場所活動（週二回 昼食 歓談、イベントなど）  
② フードパントリー（隔週開

## 太陽光パネルの工事が完了しました

世界中で進む気候危機<sup>Ⅱ</sup>洪水や海面上昇のため住む場所を失う人たちがいる一方で激しい干ばつや頻発する山火事……。以前は「異常気象」を言われていましたが、地球温暖化がこのまま進めば私たちの暮らしは成り立たなくなると国連は警告しています。

温暖化を止めるには各国、特に先進国がCO<sub>2</sub>の排出減少に努めること、そのためには化石燃料を燃やす発電から再生可能エネルギーへの転換がすすめられています。

当施設でもSDGs（持続可能な開発目標）のもと、可能な限り太陽光発電による電力の自給に向けて工事を進めてきましたが、このほど太陽光パネルの

設置工事が完了しました。

もちろん施設全部の消費電力を賄うことは不可能ですが、晴天の日には20%強、冬場でも13%程度の電力が自給できる見込みで、電気料金の節約と共に地球温暖化を食い止める動きの一端を担う意味もあるというものです（写真は編集部・芹澤和夫がドローンを使って撮影しました）。



## オンライン面会について

現在、コロナ蔓延防止のため直接の面会ができず、ご心配とご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございません。

当施設では、オンラインでの面会をお願いしております。お手持ちのスマートフォンやパソコンなどを使用してテレビ電話での面会となります。登録の仕方方や方がわからない方はお気軽にお問い合わせください。オンライン面会は画面越しに通話するだけでなく、ご家族の

写真を送っていただき、利用者様にお見せしたり、利用者様の様子を撮影してご家族に見ていただくことも可能です。

面会ができずに寂しい思いをしていらっしゃる利用者様に、是非ご家族のお声がけをお願いいたします。

\*お問い合わせ先  
電話 0550-89-5671  
CACチームまで

※オンライン面会は状況によって中止させていただく場合がございます。

オンライン面会月別数

単位：回



## 御殿場 あれこれ ⑤

### 黒澤明監督と御殿場

「日本の映画監督で世界の映画人に大きな影響を与えた人」と言えば黒澤明の名を挙げることに誰も異存はないでしょう。

ここ御殿場に「御殿場黒澤明学会」という団体があることをご存じでしょうか。黒澤監督は御殿場で多くの作品のロケを行い、こよなく富士山を愛して東山地区に別荘を建て、家族とともに住みました。

生涯に三〇本の作品を世に送り出した監督は、うち一〇本を御殿場で撮影しています。

一九五〇年発表の「羅生門」が翌年のヴェネツィア国際映画祭で金獅子賞(グランプリ)を獲得したことですでにクロサワの名は世界の映画界に知れ渡っていましたが、その名声を決定的にしたのは「七人の侍」(一九五四年度ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞受賞)でした。

高校生の時に見た私はそれまでの時代劇にはなかったダイナミックなアクションシーンに度肝を抜かれましたが、世界の映画人をも驚かせ、西部劇のリメイク作品「荒野の七人」から「続荒野の七人」「新荒野の七人」ほかの連作を生み、ジョージ・ルーカス、ステイヴン・スピルバーグなどの監督に大きな影響を与えたのです。



「七人の侍」の撮影は東宝・砦撮影所のオープンセットのほか、各地(函南町・箱根町・伊豆市・沼津市など)でロケが行われましたが、御殿場では「村

の西部」での激闘場面のほか野武士の団が村を襲う場面を二岡神社の森で撮影しました。上の写真は騎馬の野武士が駆け下りた杉木立の中の道です。

以後「蜘蛛巣城」「隠し砦の三悪人」「椿三十郎」「影武者」「乱」など多くの作品の撮影が御殿場で行われています。馬が多くエキストラも集めやすい。好条件に恵まれた当地でスタッフ、キャストが市内の旅館に分宿し撮影が行われました。これらは一九五〇年代から八〇年代まで。その後の開発で神社の境内以外は当時とすっかり景観が変わり、ロケの現場をたどることも難しくなっています。

黒澤明学会では偉大な監督の功績と地元との関わりを伝えるため、市の支援を得て二〇二〇年に「黒澤明『七人の侍』と二岡神社」の案内板を境内に設置しました。二二年には「椿三十郎」の舞台になった厳島神社(市内東山)に二つ目の案内板を立てています。

学会で中心的役割を果たし

ているのは生前の黒澤監督と親交のあった写真家の池谷俊一氏ですが、氏の作品は当施設内でも見ることができません。

黒澤監督は一九九八年に八八歳で亡くなりましたが、世界の若者は今、クロサワ映画の影響を受けた多くの剣戟アクションゲームを楽しんでいます。



写真の二岡神社では北野武監督「座頭市」(〇三年)の撮影も行われましたが、その後も当地では多くの映画、テレビドラマのロケが行われています。

(内藤 真治)

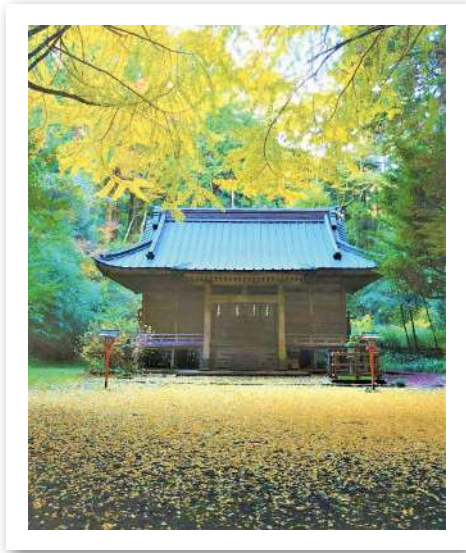


地域連携室（社会福祉士）

吉永 哲哉

健康維持のため、散歩を始めて4年が経過しました。きっかけは急性心筋梗塞を発生し、緊急手術。散歩は週に1〜2回、8キロメートル、折り返し地点は市内にある二岡神社です。

散歩中は考えごとや自然の風景を楽しんでいます。途中の畑では草を食べるヤギ、境内の苔に癒され、秋に咲くお茶の花、桜の木は来年に向けて早くも準備しています。四季折々の草花、人々の姿。お



黄葉が敷き詰められた二岡神社

祈りもいっぱいしました。

健康、仕事、感染症、災害平和、生そして死など。

何かの時につけ思い出す

ことがあります。就職して1年目におばあちゃんの患者さんから頂いた言葉で「ケセラセラ」だよ。戦争体験で辛い思いをいっぱいされた方でしたが、考え次第、見方次第でどうにもなるんだよと教えてくれました。富士山は冬支度をはじめました。自然は常に変化していきます。

4年前から何に対しても謙虚であるよう神様にもお伝えしているのですが、おろおろしている自分がいま

す。今回の散歩で今までの自分から「行ってきます」とお伝えしようと思います。

## 編集後記

新年おめでとうございます。新型コロナウイルスの感染が始まってから早三年、次々と変異株が現われ、今や「新型」の二文字を冠する要もないほど私たちの暮らしに入り込んでしまったように思えます。当施設としてもこれまで以上に警戒し、感染拡大には万全の態勢を整えております。当施設のことを広く知ってもらうには、まずは当事者である施設の職員や利用者さんのご家族からの発信が第一ですが、外からの目で見たらどうでしょうか？

たまたま私の周囲で新聞を読んだ人たちからの「ぜひ富士山麓病院を見学させてほしい」との声に心えた訪問が十一月に実現しました。高崎市は当地から二〇〇キロ以上離れています。地元でボランティア活動をしている方々は驚きと感動で「来てよかったです」と満足して帰られました。

（内藤 真治）